

平成 27 年 3 月 9 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室長 古川 浩二 様

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中 村 春 基



第50回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、3月1日に実施されました第50回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、181校(194課程)中117校(65%)から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい7つの問題（午前3問題、午後4問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

- I 複数の解が選択できると思われる4問題（午前 22、77・午後 9、20）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる3問題（午前 2・午後 50、87）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現等において選択肢の理解に戸惑う要因となっている1問題（午後 76）、消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある2問題（午前 76・午後 69）があると考えます。

午前 問題	問題番号 (22)
<p>22 正常発達にみられる原始反射の消失する順で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Moro 反射 → Galant 反射 → Landau 反射 第1相2. Galant 反射 → Moro 反射 → Landau 反射 第1相3. Galant 反射 → Landau 反射 第1相 → Moro 反射4. Landau 反射 第1相 → Moro 反射 → Galant 反射5. Landau 反射 第1相 → Galant 反射 → Moro 反射 <p>解：4、5（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1より、Landau 反射第1相の消失時期は0～6週である。</p> <p>文献2、3より、Galant 反射の消失時期は2ヶ月、文献4は3ヶ月、文献5は4～6ヶ月であり、文献によって消失時期が異なる。</p> <p>文献6より、Moro 反射の消失時期は3ヶ月、文献7は5～6ヶ月であり、文献によって消失時期が異なる。</p> <p>したがって、選択肢「4」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 前川喜平：小児の神経と発達の診かた改定第3版. 新興医学出版社, p36, 2003.2. 近藤泉 他：運動発達. 総合リハビリテーション 40 巻, pp635-641, 2012.3. 真野行生 翻訳：理学療法作業療法の為の神経生理学プログラム演習 2 運動発達と反射-反射検査の手技と評価-第1版. 医歯薬出版株式会社, pp31-32, 2011.4. 富田豊：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版. 医学書院, p11, 2013.5. 齋藤義明：乳児の運動発達-原始反射・姿勢・姿勢反射の診かた. 小児科診察 75 巻, pp753-760, 2012.6. 日本作業療法士協会監修：作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 改訂第3版. 協同医書出版社, p178, 2009.7. 真野行生：運動発達と反射. 医歯薬出版株式会社, p19, 2002.	

午前 問題	問題番号 (77)
<p>77 細菌感染によるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 梅毒2. 痘瘡3. 風疹4. 猩紅熱5. トラコーマ <p>解：1、4、5（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2、3より、梅毒はグラム陰性細菌が病原体であるため、選択肢「1」は正しい。</p> <p>文献1、3より、猩紅熱はA群レンサ球菌が病原体であるため、選択肢「4」は正しい。</p> <p>文献1、2より、トラコーマは偏性細胞内寄生細菌が病原体であるため、選択肢「5」は正しい。</p> <p>したがって、選択肢「1」と「4」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 前田眞治、上月正博、飯山準一：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版. 医学書院, p321, 332, 334, 2014.2. 高久史磨 他 監修：新臨床内科学 第9版. 医学書院, p1337, 1341, 2009.3. 福井次矢、黒川清 監修：ハリソン内科学 第4版. メディカル・サイエンス・インターナショナル, p1024, 2013.	

第 50 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成 27 年 3 月 1 日実施)

午後 問題	問題番号 (9)
<p>次の文により8、9の問いに答えよ。</p> <p>32歳の女性。交通事故による左上腕切断（上腕長30%残存）。上腕能動義手の適合検査で、肘継手を屈曲させたときに手先具が口元に届かなかった。</p> <p>9 この患者の肘継手として適切なのはどれか。</p> <p>解：4、5（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2より、選択肢「1」は上腕長断端切断に、選択肢「2」と「3」は、いずれも前腕切断に適応がある。文献1、2より、選択肢「4」と「5」は、いずれも上腕短断端切断に適応がある。</p> <p>したがって、解は選択肢「4」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 日本作業療法士協会監修：作業療法学 全書第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 改訂第3版. 協同医書出版, pp35-36, 2009.2. 澤村誠志：切断と義肢. 医歯薬出版, pp117-120, pp179-181, 2007.	

第 50 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成 27 年 3 月 1 日実施)

午後問題	問題番号 (20)
<p>20 25歳の男性。Asperger症候群。うつ病を合併していたが最近になり改善した。就労意欲が高まったため就労に向けた評価を実施することになった。この患者に実施する評価で適切でないのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. SDS2. HRS3. PANSS4. マイクロタワー法5. VPI職業興味検査 <p>解：2、3（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2より、「3」は統合失調症の検査であり、この患者の評価として適切でない。</p> <p>文献1、2、3より、「2」の“HRS”と略される評価尺度はないため、この患者の評価として適切でない。</p> <p>“HRS”がハミルトンうつ病評価尺度を意味するのであれば、略称として正しい“HRSD”、あるいは“HAM-D”を用いるべきである。</p> <p>したがって、選択肢「2」と「3」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 稲田俊也、岩本邦弘、山本暢朋：観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 改訂第3版. じほう, p71, p111, 2014.2. 岩崎テル子、小川恵子、小林夏子 他：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版. 医学書院, p479, 2011.3. 小林夏子：標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第1版. 医学書院, p95, 2011.	

第50回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成27年3月1日実施)

午前 問題	問題番号 (2)
<p>2 67歳の男性。右被殻出血による左片麻痺。発症後7日目。Brunnstrom法ステージを用いて評価を行った。 正しい判定はどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 上肢を側方水平位に挙上できたので、ステージIVとする。2. 横つまみが可能だったので、ステージIIIとする。3. 対向つまみが可能だったので、ステージVとする。4. 立位、股関節伸展位で足関節の背屈ができたので、ステージVとする。5. 立位、股関節伸展位で膝屈曲ができたので、ステージVIとする。 <p>解：3のみ</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2より、解は選択肢「3」のみである。</p> <p>選択肢「1」の“上肢を側方水平位に挙上できた”場合はステージV、選択肢「2」の“横つまみが可能だった”場合はステージIV、選択肢「5」の“立位、股関節伸展位で膝屈曲ができた”場合はステージVとそれぞれ判定されるため、これらの選択肢は誤りである。</p> <p>また、選択肢「4」の“立位、股関節伸展位で足関節の背屈ができた”はBrunnstrom法ステージの評価では、用いることのない肢位であるためこれも誤りである。</p> <p>したがって、解は選択肢「3」のみである。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 岩崎テル子：標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版. 医学書院, p341, 2011.2. 日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第4巻 作業治療学1 身体障害 改訂第3版. 協同医書出版, p55, 2008.	

第50回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成27年3月1日実施)

午後 問題	問題番号 (50)
<p>50 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(心神喪失者等医療観察法)について正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 対象者の行動管理が目的である。2. 入退院の処遇は簡易裁判所で判断される。3. 鑑定入院時の評価に作業療法士が関与する。4. 指定入院医療機関には社会復帰調整官が配置される。5. 社会復帰調整官は指定入院医療機関の退院決定から対象者と関わる。 <p>解：解なし</p>	
<p>理由</p> <p>問いは心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律についての問いである。</p> <p>資料1より、心神喪失者等医療観察法 第一条より、病状の改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もってその社会復帰を促進することを目的とするため、選択肢「1」は除外できる。</p> <p>同法第三条より、処遇事件は地方裁判所の管轄に属するため、選択肢「2」は除外できる。</p> <p>同法第三十七条より、対象者の鑑定に作業療法士が関与する旨の記載がないため、選択肢「3」は除外できる。</p> <p>同法第二十条より、保護観察所に社会復帰調整官を置くため、選択肢「4」は除外できる。</p> <p>資料2より、社会復帰調整官は入院期間中から関与するため、選択肢「5」は除外できる。</p> <p>したがって、適切な解答が選択できないため、解なしとする。</p>	
<p>参考資料</p> <ol style="list-style-type: none">1. 厚生労働省ホームページ 心神喪失者等医療観察法 http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxselect.cgi?IDX_OPT=4&H_NAME=&H_NAME_YOMI=%82%a0&H_NO_GENGO=H&H_NO_YEAR=&H_NO_TYPE=2&H_NO_NO=&H_FILE_NAME=H15H0110&H_RYAKU=1&H_CTG=46&H_YOMI_GUN=1&H_CTG_GUN=12. 厚生労働省ホームページ 医療観察法制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/sinsin/gaiyo.html	

午後 問題	問題番号 (87)
<p>87 原始反射とその説明の組み合わせで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Moro反射—————両上肢の挙上2. 緊張性迷路反射—————腹臥位での四肢の伸展3. 非対称性緊張性迷路反射——顔を向けた側の上下肢屈曲4. Galant反射—————刺激側が凸になる体幹の側屈5. 台のせ反応—————刺激側足関節の底屈 <p>解：解なし</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2、3より、選択肢「1」のMoro反射について、「両上肢の伸展・外転」「両上肢を開排伸展させながら両手を開扇し、次に抱きつくように上肢を屈曲させる」「上肢の伸展・外転と手指伸展が起こり、続いて上肢内転が起こる」とある。</p> <p>文献4より、「両上肢を開き、側方から正中方向に抱きつくような動き」とある。 両上肢の挙上との記載はない。</p> <p>選択肢「2」と「4」と「5」は組み合わせが不適切である。</p> <p>文献1、2、3より、選択肢「3」の“非対称性緊張性迷路反射”という用語の記載が見られないため正しいとする根拠に欠ける。</p> <p>したがって、適切な解答が選択できないため、解なしとする。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 富田豊 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第3版. p48, 2009.2. 和才嘉昭、嶋田智明：測定と評価 第2版. p361, 2006.3. 中村隆一 他：基礎運動学 第6版. p434, 2003.4. 伊藤正男 編：医学書院 医学大辞典 第2版. p2778, 2010.	